



10月19日に実施した人権教育講演会では、講師の西野旅峰先生から皆さんに送られたメッセージに心打たれた人も多かったようです。(裏面参照)皆さんの感想の中で、最も多かったのが、「よく生きた、そうやって死ぬために」。人生について、幸せについて考えた人もたくさんいたのではないのでしょうか。そこで、二つの話を紹介します。

「天国の恩人」

(ちょっといい話「言の葉大賞入選作から」 入選 宮城県角田市 斎藤真由美)

平成23年3月11日、この日を私は決して忘れない。

大津波で車ごと流され、半ば諦めかけ恐怖で呆然とした私を、自らの命を省みず救ってくれた70代の男性。私を安全な所まで車を押し避難させてくれると、またすぐに、次の人の救助に向かいました。途中、次の大津波に襲われ、私が見ている前で「俺は十分生きた。娘さん頑張っているんだぞー」と力強く叫び力尽きて沈んでいった男性。

未曾有の大震災とはいえ、気がつくと、その方の名前どころか顔も覚えていません。でも、最期に聞いた力強い声は今でもしっかりと脳裏に焼き付いています。

まさに命の恩人。「その方は自分の今後の人生を考えなかったのだろうか?」「私を助けて何の得があったのだろうか?」と随分悩みました。

全てを失いゼロからのスタートです。いろいろな方に励まされ、「一人じゃないからね」と支えられ、手を差し伸べ、勇気づけられ、この時ほど「人間って温かいなあ」と感じたことはありませんでした。

私の体験した話をすると皆さん目を潤ませ、「その方の分まで強く生きるんだよ」と肩を抱かれます。私もこれからの人生、その方に助けられて得た命、来世に行ってお会いしてお礼が言えるよう必死で生きます。私もあとから行きますので、もう少し長めに待っていてください。

3月11日 男性の命日であり 私の生まれ変わった日です。

幸せな人生だったと感謝している。

1985年8月12日、暑さ真っ盛りの夕方、羽田を離陸し大阪に向かうジャンボ機が操縦不能に陥り、群馬県の御巣鷹山に激突、炎上、乗客・乗員524人のうち、生存者は4名という大惨事が起こりました。連日の報道の中で乗客の河口博次さんのメモが印象に残っています。異常発生から墜落まで約30分間、激しく揺れ、人々の叫び声がするパニック状態の中で、手帳に7ページ分、家族にあててメモを書き残しました。

一万社から三千社委位まで急降下がつづき、ベルトは身に食い込み、気圧の変化で耳は聞こえない、荷物が落ちる、人が前に転ぶ、泣き、叫ぶ、恐怖の阿鼻叫喚、もうおしまいだと思いながら、彼は最後に。「幸せな人生だった、感謝している」と結ぶほど、愛情深く、人柄の優れた人だったに違いありません。

時間は約30分しかなかった。さぞかし、心急ぐことだっただろう。それゆえに、言葉の一つひとつは重く、読む人の心に響きます。

マリコ 津慶 知代子	何か機内で 爆発したような形で
どうか仲良くがんばって	煙が出て 降下しだした
ママをたすけてください	どこえどうなるのか
パパは本当に残念だ	津慶しっかりたのんだぞ
きっと助からない	ママこんなことになるとは残念だ
原因は分からない	さようなら
今、5分たった	子供達のことよろしくたのむ
もう飛行機には乗りたくない	今6時半だ 飛行機は
どうか神様 助けて下さい	まわりながら急速に降下だ
きのうみんなと	本当に今迄は幸せな
食事をしたのは最後とは	人生だったと感謝している



「よく生きた、そうやって死ぬために」。何事にも真剣な人は最後にこの答えにつながるそうだ。僕は、今日、この講演でこの言葉が印象に残った。その答えが出るには、どんなことにも挑戦していくこと。でも、人間は怖くなり、何らかの言い訳をつけてスタートラインに立つことができない。スタートラインに立つことは、見知らぬ世界に立つことだから怖いけど、自分が頑張った分だけスタートラインに近づくことができる。僕たちの人生、一瞬で、たった一度きりだから、自分で判断、選択していくことで自分を作っていけるし、最初に述べた答えに辿り着けると思った。ただ大人になるにつれて世界を知り、考えることをやめてしまうので、いつまでも考え続けて挑戦することができるなら、積極的に挑戦していきたい。(1年男子)

今回の講演会で3つのことを学んだ。1つ目は勇気を出してスタートラインに立つこと。2つ目は、学校へ行くことがどれだけ恵まれているかと言うこと。私は学校に行くことが好きだ。“今日は授業で何を学ぶのだろう”“友達と何を話そう”などいつもワクワクしている。時には“学校に行きたくない”と思うこともある。しかし、この講演会で学校に行きたいのに行けない少女がいることを知り、学校へ行くと言うことがどれだけ恵まれているかが分かった。もっと、学校へ行くことを大切にしようと思った。3つ目は当たり前と思っていることが、当たり前ではないということだ。家族がいること、食べ物があるということ、どれも私にとっては当たり前なことだが、世界には子供だけで生活している人ややりたいことがあってもできない人がある。私は家族が大好きだ。だから、これからも感謝の気持ちを持ち、当たり前と思っていることは実は、そうではないということを中心に生活していこうと思う。(2年女子)

改めて命の重さについて考えさせられた。同じ時代に生きながら同じ人間でありながら、立っている所は人それぞれ違う。それぞれの悩みをもちながらも、幸せになるために、みんな今を生きている。しかし、抱えている問題があまりにも違いすぎる。では、私には何ができるのだろうか?「おにぎりアクション」とい言葉をご存じですか?!これは国連が制定している10月16日の世界食料デーに関する企画である。おにぎりをSNSに「#OnigiriAction」というハッシュタグを付けて投稿するだけでTABLE FOR TWOを通じてアフリカやアジアの子供たちに給食が届く。とてもすごい企画だと思う。これだったら、私にもできる。まずは、自分にできることを探して行動していくことだなと強く感じている。(2年女子)

今、自分には大きな夢はない。ただなんとなく学校に来て勉強しているように思う。しかし、自分は勉強する理由は何と聞かれたら念のためと答える。夢を探すために今、頑張っている。この答えでも十分、スタートラインに立ったと思っている。恵まれているはずの日本は若者の自殺は多い。恵まれているから幸せ、貧しいから不幸であるということは決してないと思う。同じ時代に生きているのに知らないことが多い。「無知の知」という言葉があるが、自分は何も知らないと言うことを理解して考えることも一歩を踏み出すきっかけになるのだと思う。これからどう生きたいのか、どのように自分の命を使えば良いのか、今まで考えたこともなかった。人間が人間らしく生きられる世界はどうすれば作れるのか。世界をすぐに変えることはできないが、自分をすぐにかえることはできる。一生は一度しかない。自分はどうすればよいのかという答えは必ず見つけたい。自分の幸せのためにはもちろん幸せを与えられる夢をつくっていきたい。(3年男子)

- 自分の生き方とは何なのかということ改めて考えることができた。人にはたくさんの生き方がある。そして、夢には大きな力がある。夢をもつことで夢に向かって自分が何をしないといけないかが明確になり、実現するために頑張ろうと思う。しっかりスタートラインにまず立って、夢に向かっていけるような大きな人になりたいと思った。(2年男子)
- 私も自分のやりたいことを見つけたことができたなら、自分の人生をやりたいことで埋め尽くして、誰かのために生きることをしてみたい。みんなそれぞれ悩みを抱き、幸せを求めて生きている。人は幸せになるため、人を幸せにするために生きている。この言葉が人生の意味を教えてくれた。(1年女子)
- 私は受験生で「進路とか投げ出したい」と思うことがある。しかし、講演を聴いてまだ全力でやってもないし、できることは山ほどあるのに、失敗を恐れて挑戦したがない「スタートラインに立っていない」と気づいた。人生は一度きり、なら挑戦—その通りだ。私には幸いにも切磋琢磨し、支え合える大切な友がいて、応援してくれる方がたくさんいる。そして、紙とペンがあり、教育を受けて生きている。それが当たり前のようにになっているが、とても幸せなことだと感じた。今ある幸せを噛みしめ、日々精進しようと思った。私の努力が誰かへ伝わり力になれるようにしたい。(3年女子)
- 人間には様々な生き方があって、生きたくても、したいことがあっても、会いたい人がいたとしても、できない人は数え切れないくらいいて、その分、私たちは恵まれているのだから、よく生きた。そうやって死ぬために今を精一杯生きようと思う。優しい心の持ち主になれるように、困っている人の役に立っているような人間になりたい。(3年女子)